

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業（精神障害分野）
被災地のアルコール関連問題・嗜癖行動に関する研究
（研究代表者 松下幸生 国立病院機構久里浜医療センター副院長）

分担研究報告書
アルコール関連問題・嗜癖行動の実態調査
分担研究者 松下 幸生 国立病院機構久里浜医療センター副院長

研究要旨：

本研究の目的は、被災地におけるアルコール関連問題や嗜癖行動の実態を調査し、さらに追跡調査を実施することによって震災との関連を検討して予防策を検討することにある。本年度は昨年度に実施した岩手・宮城県調査の対照コントロールとして飲酒や嗜癖に関連した行動の全国実態調査を実施した。調査の概要および主要な結果は以下の通りである。層化2段無作為抽出法により全国の成人住民から抽出した2,000名に対して面接および自記式からなる調査票を用いて飲酒行動、アルコール関連問題、嗜癖行動に関する調査を実施した。有効回答は面接調査が1,082名（54.1%）、自記式質問票は1,059名（53.0%）から得られた。

飲酒経験の有無を男女で比較すると男性で経験者の割合が高く、男性では94.52%、女性の80.0%が飲酒経験ありと回答していた。一方、高齢の女性では飲酒経験のないものが70歳代で約47%、80歳以上では半数に飲酒経験がない。

飲酒頻度は男女とも年代による差が大きく、毎日飲酒すると回答した者の割合は男性では60歳代、50歳代で高い。一方、毎日飲酒する女性は40歳代で最多であり、70歳代が次ぐ。若い世代の飲酒は毎日飲酒すると回答した20歳代男性は一人もいなかったのに対して女性では8.2%が回答しており、20歳代では女性の飲酒頻度が高い。

飲酒経験のあるものを対象として1回あたりの飲酒量を聴取して、性別・年代別に比較したところ、20歳代を除いて全年代で男性が女性より飲酒量が多いが、唯一20歳代では男女とも平均飲酒量はほぼ同じであった。また、飲酒量をグループに分けて比較したところ、20歳代男性では2単位未満が最多で38.5%であったのに対して20歳代女性では2単位以上4単位未満が最多で37.5%であった。また、1回に6単位以上を飲酒する多量飲酒者の割合は20歳代男性で15.4%であったのに対して女性では26.6%と女性の多量飲酒者の割合が高かった。

本研究はDSM-IVの基準を用いて全国の一般住民における有病率を国内では初めて調査している。その結果、最近1年間のアルコール依存症の基準に該当するものの割合は、男性の9.9%、女性の1.5%であり、生涯の依存症の基準に該当するものは男性の21.9%、女性の5.4%であった。米国の調査結果と比較すると、米国では若い世代の依存症有病率が高いが、我が国では中年の世代の有病率が高く、年代による有病率の差が明らかであった。

分担研究者氏名・所属機関

尾崎米厚 鳥取大学医学部環境予防医学分野教授

研究協力者氏名・所属機関

木村 充 国立病院機構久里浜医療センター精神科診療部長

真栄里 仁 国立病院機構久里浜医療センター教育情報部長

佐久間寛之 国立病院機構久里浜医療センター精神科医師

吉村 淳 国立病院機構久里浜医療センター精神科医師

A. 研究目的

災害発生後に被災地で飲酒量が増加してアルコール関連問題が発生することは国外の過去の多くの災害やその調査が指摘している。

本研究は飲酒行動、嗜癖行動やアルコール関連問題に震災の及ぼす影響を検討して実態を把握（横断的および縦断的研究）し、効果的予防方法や対策に関して検討することを目的とする。

海外ではアルコール関連問題は PTSD やうつ病などと並んで災害後のメンタルヘルスを検討する上で重要な課題であり、研究の必要性は極めて高い。一方、わが国では阪神淡路大震災後にアルコール関連問題による孤独死の多いことが報告されているものの、災害がアルコール関連問題に及ぼす影響に関して検討した調査は皆無に等しい。また、ギャンブルなどの嗜癖行動と災害との関連に関する調査は国内外ともにほとんど行われていない。

さらに、本研究は災害がどのように被災者

の飲酒行動や嗜癖関連行動を変化させるか、災害がアルコール関連問題の発生にどのように関わるかといった点を明らかにし、アルコール関連問題に脆弱な者の特定やその対策について検討するために必要な情報を提供することによって今後の災害の際にアルコール関連問題や病的嗜癖の予防策や対策を講じる上で重要なエビデンスを提供する。

以上の点を踏まえて本研究の特徴は以下の点である。

1) 被災地におけるアルコール関連問題の状況を一般人口に対する無作為抽出標本を使った調査は過去にほとんど行われていない。

2) アルコール関連問題のみならずニコチン依存、ギャンブル、インターネット、睡眠薬・ベンゾジアゼピン系薬物の使用といった嗜癖に関連した行動について災害との関連を本調査が初めて明らかにする。

3) 過去の調査ではアルコール依存についてスクリーニングテストを用いて推計するものがほとんどであるが、本調査では直接面接で DSM-IV 診断基準 1) を適応してアルコール依存、乱用の被災地における実態を初めて明らかにする。

4) 過去の全国調査で使用されたアルコール関連問題、ギャンブル依存、インターネット依存、ニコチン依存のスクリーニングテストと同じテストを使用することによって全国調査との比較を可能にする。

本年度は3年計画の2年目であり、昨年実施した岩手・宮城県における住民調査の対照コントロールとして全国の20歳以上の住民を対象とした調査を実施した。調査内容は飲酒、喫煙、睡眠薬・ベンゾジアゼピ

ン系薬物の使用、ギャンブル、インターネットについての使用状況である。

B. 研究方法

1) 3年間の概要

本研究の中心課題は被災のアルコール関連問題や嗜癖行動へ及ぼす影響を調査することである。本年度は岩手県、宮城県の住民を対象とした縦断調査を行って、飲酒、喫煙、ギャンブル、インターネット等の行動の実態調査を行った。次年度では被災地のコントロールとして全国の住民を対象とした調査を実施して被災地の結果と比較する。最終年度では初年度の調査に協力してくれた住民に対して再度調査を行って、アルコール・嗜癖関連行動について縦断的に調査を実施する予定である。

2) 実態調査

調査票

調査票は昨年度の調査で使用したものと基本的には同一のものである。昨年度との違いは被災に関する質問が被害の有無のみを尋ねるようにした点が唯一異なっている。調査票は面接調査用と自記式の調査票で構成されている。

面接調査用の調査票では喫煙の有無、喫煙本数、飲酒経験の有無、飲酒頻度・量、飲酒によるフラッシング反応の有無について質問している。飲酒量については普段飲む酒類およびその量を尋ねているが、量の確認にはコップのサンプルを提示して正確に量を推計できるように配慮している。さらに、DSM-IVのアルコール依存症（現在および生涯）、アルコール乱用（現在および生涯）の基準に関する質問項目が含まれている。この調査票は米国における大規模な一

般住民調査(National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions; NESARC)2)で使用されたものを邦訳して使用した。さらに、面接調査では性別、誕生日、学歴、婚姻状況、生育地、同居家族、職業、収入といった基本情報を聴取した。一方、自記式調査票では以下の項目について記載を依頼した。

a. Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT)質問票 3)

AUDITは主に有害な使用の同定を目的としたスクリーニングテストである。各質問項目の回答にある点数を合計したものが得点となる。カットオフ値は国内で使用する場合には10~14点にすることを推奨する報告もあるが4)、本研究では原版で国際的にも採用されることの多い8点、12点、15点を採用した。

b. CAGE 質問票 5)

過去のすべての期間を対象として聴取する質問票であり、2項目以上に該当する場合にアルコール依存症とされる。

c. ニコチン依存質問票 (Fagerström Test for Nicotine Dependence ; FTND) 6)

このテストは自記式で行われるニコチン依存のスクリーニングテストである。生理学的な側面からニコチン依存症の程度を簡易に評価するためのスクリーニングテストとして、国際的に広く用いられる。

d. ニコチン依存質問票 (Tobacco Dependence Screener; TDS) 7)

TDSはICD-10やDSM-に準拠して、精神医学的な見地からニコチン依存症をスクリーニングすることを目的として開発されたものであり、10項目の質問から構成され、5項目以上に該当する場合にニコチン依存

症が疑われる。

e. インターネット依存質問票 (Internet Addiction Test; IAT) 8)

IAT は 20 項目からなるテストで 20-39 点を標準ユーザー、40-69 点を問題ユーザー、70-100 点を重篤問題ユーザーと評価する 8)。日本語版は他の研究班が邦訳したものを使用した。

f. ギャンブル依存質問票 (South Oaks Gambling Screen; SOGS) 9)

病的賭博 (ギャンブル嗜癖) は修正日本語版 SOGS を用いて評価し、5 点以上を病的賭博者とした 9)。他の研究班が邦訳したものを使用した。

g. ベンゾジアゼピン系薬物依存質問票 (BDEPQ)

海外にて作成されてベンゾジアゼピン依存症のスクリーニングに広く使用されているスクリーニングテストである。本研究班で邦訳したものを使用した。海外ではカットオフ値は 23 点とすることが推奨されており、本研究班でも 23 点を採用した。

h. 寝酒の頻度・量

調査に用いた調査票は本報告書に添付資料として示した。

標本抽出

層化 2 段無作為抽出法により、岩手県、宮城県、福島県を除く 100 地点から今回の対象とした 20 歳以上の男女 2,000 名を抽出した。抽出方法の詳細は添付資料として本報告書に示した。

調査方法

あらかじめ抽出された対象者に対して、事前に調査依頼のはがきを送付した。調査は

一斉に平成 25 年 11 月 7 日から同年 12 月 3 日までの間に実施した。各地区の調査員が対象者の自宅へ出向いて、面接調査部分は面接により回答を聴取し、面接後に自記式調査票に記入を依頼して調査票は調査員が後日自宅を訪問して回収した。有効回答は面接調査が 1082 名 (54.1%)、自記式質問票は 1059 名 (53.0%) から得られた。回答の得られなかった理由として、転居 86 名 (9.1%)、長期不在 51 名 (5.4%)、一時不在 261 名 (27.6%)、住所不明 28 名 (3.0%)、拒否 468 名 (49.6%)、その他 21 名 (2.2%)、面接または留置のみ協力 29 名 (3.1%) となっている。なお、実際の調査は上記標本抽出を含めて、社団法人新情報センターに委託した。

解析方法

得られた回答はコンピューターに入力して解析を行った。解析には統計解析パッケージ SAS (version 9.2) を使用した。サンプリングで層化 2 段無作為抽出を行っているため、データの補正は行っていない。

アルコール乱用の同定

アルコール乱用は DSM-IV で定義されるカテゴリーである。本研究では DSM-IV の診断基準に合わせた面接調査票を用いている。以下にその診断基準を示す。

臨床的に著名な障害や苦痛を引き起こす不適応的なアルコール使用様式で、以下の少なくとも一つが 12 か月以内に起こることによって示される。症状は依存の診断基準を満たしたことはない。

アルコールの反復的な使用の結果、仕事、学校、または家庭の重要な役割義務を果た

すことができなくなる。

身体的危険のある状況でアルコールを反復使用する。

反復的に引き起こされるアルコール関連の法律上の問題。

持続的、反復的な社会的または対人関係の問題がアルコールの影響により引き起こされたり、悪化したりしているにもかかわらず、アルコール使用を継続する。

診断基準ではアルコールを含むすべての精神作用物質に共通するが、ここでは作用物質はアルコールに限定して記載した。調査では最近1年間および生涯にわたって該当する項目について聴取した。

アルコール依存症の同定

本研究ではDSM-IVの診断基準に合わせた面接調査票を用いている。

以下にその診断基準を示す。

臨床的に重大な障害や苦痛を引き起こすアルコール使用の不適応的な様式で以下の3つ(またはそれ以上)が、同じ12か月の期間内のどこかで起こることによって示される。調査では過去1年間および生涯にわたって該当する項目があるか聴取した。

耐性、以下のいずれかによって定義されるもの:a. 酩酊または希望の効果を得るために著しく増大した量のアルコールが必要

b. アルコールの同じ量の持続使用により、著しく効果が減弱

離脱、以下のいずれかによって定義されるもの:a. アルコールに特徴的な離脱症候群がある b. 離脱症状を軽減したり回避したりするために、アルコールを摂取するアルコールをはじめのつもりより大量に、またはより長い期間、しばしば使用するアルコールを中止、または制限しようとする

る持続的な欲求または努力の不成功のあること

アルコールを得るために必要な活動(例:長距離を運転する)アルコール使用(例:立て続けに飲む)またはその作用からの回復などに費やされる時間の大きいこと

アルコールの使用のために重要な社会的、職業的または娯乐的活動を放棄、または減少させていること

精神的または身体的問題がアルコールによって持続的、または反復的に起こり、悪化しているらしいことを知っているにもかかわらず、アルコール使用を続ける

(倫理面への配慮)

本研究は独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター倫理審査委員会の承認を得て実施した。調査対象者に対しては、調査の趣旨・内容・方法等を記した依頼状を郵送して、調査の内容を伝え、その後に調査員が自宅を訪問して、対象者に調査の趣旨、内容、方法をよく説明して書面による同意を得た上で調査を実施した。また、得られた情報は厳密に保管して、本調査の関係者以外が取り扱えないよう配慮し、個人情報の漏洩予防には十分な対策を講じた。データの公表の際には個人名などの個人が特定される情報は削除し、個人情報の保護には十分配慮する。

C. 研究結果

1. 回答者の背景情報(表1~7)

回答者の性別、年齢別および住居地域別分布は付表の基本集計の通りである。男性は493名、女性は589名から回答を得た。平均年齢は男性が54.7±16.7歳、女性が52.0

±16.4歳と女性で年齢が若い。

回答者の教育歴は学校に通った年数を尋ねている。中学卒業程度の9年までが男性は11.4%、女性は11.5%、高校中退または卒業程度の10年～12年が男性36.4%、女性は42.7%であった。

婚姻状況は配偶者と同居している者が男性の76.1%、女性の66.7%と最多であり、その次は男女とも未婚で男性は18.7%、女性は17.7%であった。

同居家族数は男性では本人を含めて2名が最多で30.4%、女性は3名が最多で27.3%を占めた。次に多いのは男性の場合、3名で26.8%、女性は2名で26.0%であった。

職業は男性では勤め(正社員・職員)が46.5%、無職が26.2%の順であり、女性では専業主婦が34.5%、勤め(非常勤)が28.2%の順である。

回答者の収入は男性では200～300万円未満が23.9%と最も多く、300～400万円未満が17.2%と次に多い。女性では100万円未満が28.5%、100～200万円未満が25.6%の順であった。

2. 震災による被害の有無(表8)

震災による被害は少数であるが、男性の6.1%、女性の7.0%で被害があったと回答している。被害の内訳は巻末に資料として掲載する。

3. 飲酒パターン

飲酒については面接調査票にてアルコール飲料を飲んだ経験の有無、飲酒頻度、飲酒量、飲酒開始年齢、少量の飲酒による顔面紅潮の有無、自記式調査票では各スクリーニングテストに加えて寝酒の習慣の有無と頻度を聴取している。

1) 飲酒経験の有無(表9)

男女で比較すると男性で経験者の割合が高い。男性では94.52%、女性の80.0%が飲酒経験ありと回答している。一方、高齢の女性では飲酒経験のないものが70歳代で約47%、80歳以上では半数に飲酒経験がない。

2) 飲酒頻度(表10)

飲酒頻度は面接調査および自記式質問票(AUDIT)で確認しているが、表には面接調査で聴取した頻度を集計した。調査では平均的な飲酒の頻度を質問している。

表には年代・性別の飲酒頻度を示したが、男女とも年齢によって頻度が異なることが明らかである。20歳代で男女を比較すると毎日飲酒すると回答した男性はおらず、週に3～6日は15.8%であったのに対して女性の8.2%が毎日、8.2%が週に3～6日飲酒すると回答している。飲酒頻度が高いものの割合は女性に多い一方で月に1日以下の割合も女性に多い。このように20歳代の女性では高い頻度で飲酒する女性とあまり飲酒しない女性の2極化が生じている可能性がある。一方、30歳代以上の年代ではいずれの年代も男性で頻度が高い。飲酒頻度に関して男性で頻度が高いことは従来の飲酒実態調査の結果と一致する。特に60歳代の男性では半数近くが毎日飲酒すると回答している。一方、本調査では若い世代では高い頻度で飲酒する者の割合は女性で多いという結果が示された。この女性の方で飲酒頻度が多いという結果は従来の飲酒実態調査ではみられなかった結果である。

4) 飲酒量(表11)

本調査では過去1年間に飲酒経験のあった者に対して普段の1日の飲酒量を質問している。酒類をa. ビール・発泡酒、b. 日本

酒、c. 焼酎、d. 酎ハイ類、e. カクテル類、f. ワイン、g. ウイスキー類、h. その他に分類して、酒類ごとにコップの写真を見てもらいながら量を推計して飲酒量を調査する方法を採用した。集計には各飲料に含まれる純アルコール量を用いた。なお、アルコール量の単位には純アルコール 10 グラムを 1 単位として集計した。

表には飲酒経験のある者のみの集計を示す。飲酒頻度同様に 20 歳代では 1 回あたりの飲酒量はほぼ同じだが、30 歳以上の年代では明らかに男性で飲酒量が多い。若い世代では飲酒に関する男女差がなくなっていることが示されている。

5) 飲酒量の分布 (表 12)

1 回あたりの飲酒量を分類して性別、年代別に比較した。

20 歳代の男女を比較するともっとも割合の多い飲酒量は男性で 2 単位未満なのに対して、女性では 2 単位以上 4 単位未満と女性の方が多く、6 単位以上を飲酒する多量飲酒者の割合も女性で高い (男性 15.4%、女性 17.2%)。

30 歳代以上の年代では男性で飲酒量が多いことは表 11 の結果と同じである。特に 40 歳代、50 歳代の男性では 6 単位以上飲酒する多量飲酒者の割合は概ね 4 人に 1 人の割合であった。

6) 寝酒の習慣 (表 13)

眠りを助けるために飲酒することを寝酒と定義してその習慣の有無、頻度について質問している。表には性別・年代別に寝酒の頻度を示す。男性の場合は 40 歳代、50 歳代で寝酒の頻度が高い傾向にある。女性は男性より頻度がかなり少ない。

4. AUDIT、CAGE テスト

これらのテストはいずれも国外から導入された。両テストとも国内外で広く使用されているものである。

1) AUDIT (表 14)

表にはカットオフ値を 8 点、12 点、15 点とした場合の割合を性別・年代別に示した。

男性の場合、いずれのカットオフ値においても 40 歳代、50 歳代でカットオフ値を上回る割合が高い。一方、女性の場合はカットオフ値が 8 点の場合は 20 歳代～40 歳代で多いが、12 点、15 点では 30 歳代、40 歳代で多いという結果であった。

2) CAGE (表 15)

表には性別・年代別の点数を示した。男性では AUDIT と同様に若い世代で陰性者が多く、30 歳代で最多で 40 歳代が次ぐ。女性では男性より点数の低い者が多いが、40 歳代で 1 点以上の割合が高い。

5. DSM-IV 基準による乱用・依存の割合

表 16 には性別・年代別に乱用・依存の基準を最近 12 カ月間と 1 年以上前の過去に分けて該当する者の割合を示した。

アルコール乱用

対象者全体では過去 1 年間に乱用の基準に該当するものは男性 2.0%、女性 1.2%、生涯の乱用の基準に該当するものは男性 9.7%、女性 2.7%であった。この調査結果を 10 歳階級で集計して、2012 年 10 月の日本総人口を基準として年齢調整をすると、現在のアルコール乱用の基準に該当するのは男性の 2.3%、女性の 1.4%、生涯の基準に該当するのは男性の 9.4%、女性の 2.4%となる。年齢分布をみると、過去に乱用の基準に該当した者の割合は男性では 40 歳代で最多

であり、20 歳代、50 歳代が次ぐ。女性の場合は生涯の乱用は 50 歳代、30 歳代の順で多かった。

アルコール依存症

現在の依存症の基準に該当する者の割合は男性では 50 歳代が最多であり、40 歳代が次ぐ。女性は男性に比べると該当する者は少ないが、20 歳代、30 歳代で多く、40 歳代が次ぐというパターンは男性と異なり、若い世代に多い。このことは飲酒量の多いものが女性の場合は若い世代に多いことと一致している。対象者全体では男性の 9.9%、女性の 1.5%が現在の依存症の基準に該当した。乱用の場合と同様に 2012 年の日本総人口を基準として年齢調整すると、現在の依存症の有病率は男性の 10.0%、女性では 1.5%であった。

一方、生涯の依存についてみると、男性では 40 歳代、50 歳代で最多であり、現在の依存と同様に中年世代に多いというパターンである。女性の場合は 30 歳代、40 歳代が多い。対象者全体では男性の 21.9%、女性の 5.4%が生涯の依存症の基準に該当し、この結果を日本総人口を基準に年齢調整すると男性の 20.3%、女性の 5.1%が該当することになる。

6 . 喫煙

喫煙に関しては過去に 100 本以上のたばこを吸ったことがあるものを喫煙経験あり、ない者を非喫煙者と定義した。さらに、調査前 1 カ月間に喫煙ありと回答したものを喫煙者、過去 1 カ月間には飲酒していないと回答したものを元喫煙者と定義して、表にその割合を男女・年代別に示した。

1) 喫煙者の割合 (表 17)

全体では非喫煙者は男性の 35.3%、女性の

81.2%、元喫煙者は男性の 27.7%、女性の 9.0%、現在の喫煙者は男性の 33.9%、女性の 8.5%であった。男性では 40 歳代から 50 歳代で喫煙者の割合が高く、女性では 20 歳代で最多である。

2) ニコチン依存のスクリーニングテスト (表 18)

この調査では 2 種類のスクリーニングテストを用いた。表には FTND、TDS それぞれのカットオフ基準値での割合を性別・年代別に示す。男性では FTND のカットオフ値を上回っているのは 40 歳代～60 歳代で割合が高い。女性では FTND の高得点は少ない。TDS についてみると男性では 30 歳代から 50 歳代でカットオフを上回る高得点者の割合が高いが女性の場合は 20 歳代で最多となっている。

7 . インターネット依存質問票 (表 19)

表には IAT40 点以上の者の割合を性別・年代別に示す。表から明らかのようにインターネット依存が疑われる IAT40 点以上のものは男女とも 20 歳代で最多であり、30 歳代、40 歳代が次ぎ、それ以上の年代ではゼロであった。

8 . ギャンブル依存質問票 (表 20)

SOGS5 点以上の者の割合を性別・世代別に表に示す。性別では男性に多く、年代では男性は 40 歳代、50 歳代で割合が高い。一方、女性は 20 歳代で最多であり、30 歳代が次ぎ、男性とは異なるパターンであった。

9 . 睡眠薬の使用とベンゾジアゼピン系薬物依存 (表 21、22)

本調査では自記式質問票に睡眠に関する質問項目が含まれており、「眠りを助けるために睡眠剤や安定剤を使うことがありますか」という設問がある。さらに使うことがある

場合にはその頻度を回答してもらう。

表 21 にはその頻度を性別・年代別に示す。1 週間に 5 日以上とほぼ毎日使用している者の割合は全体では女性に多く、年代では男女とも 70 歳代の高齢者に多いことがわかる。

表 22 には BDEPQ の 23 点以上の者の割合を性別・年代別に示すが、睡眠薬の使用頻度と同様に女性に多い。男性では全体で 0.4% と極めて少ないが、女性では少ないながらもどの年代にも数%認められていた。

10. AUDIT と他のスクリーニングテスト結果との相関について(表 23~28)

表には AUDIT8 点以上と他のスクリーニングテストとのクロス集計を示す。AUDIT はニコチン依存スクリーニングテストとは FTND、TDS とともに男女共通して強い相関を示しており、アルコール問題と喫煙は相関が強いことを示す。

一方、インターネットとは有意な相関を認めなかった。ギャンブル依存とも同様であった。

睡眠薬の使用頻度に関しても特に相関は認められなかった。BDEPQ と AUDIT についても相関を認めなかった。

寝酒とのクロス集計では強い相関が認められ、AUDIT8 点以上の者では寝酒の頻度が有意に高く、アルコールを睡眠薬代わりに使用している可能性を示唆するものといえる。

11. 被災状況との相関について

次に被災状況と飲酒関連行動との関連をみたが、東日本大震災によって被害があったと報告しているのは男性の 6.1%、女性の 7.0%と低い割合である(表 8)。従って、統計検定の解釈には注意が必要であるが、震災による被害と相関を認めたものは女性に

おける多量飲酒者の割合(表 29)と DSM-IV のアルコール乱用(表 30)であった。男性ではむしろ被害のあったものは多量飲酒者の割合が低く、DSM-IV のアルコール乱用に該当する者の割合も被害のなかった男性と等しいため、これらの結果の解釈には注意を要する。

D. 考察

本研究は一般住民調査を用いて震災被害がアルコール関連問題や嗜癖行動へ及ぼす影響について検討するものである。本年度は昨年度に調査した岩手県・宮城県沿岸部と内陸部の住民調査の対照コントロールとして全国の住民を対象とした調査を実施した。まず、本調査結果を 2008 年に実施された全国調査(11)と比較すると、AUDIT8 点以上の割合は本研究では男性の 25.3%、女性の 3.8%が 2008 年全国調査では男性 22.9%、女性 3.6%とほぼ同様の割合であった。AUDIT12 点以上は本研究の対象となった男性の 10.1%、女性の 1.3%であったのに対して 2008 年全国調査では男性 10.5%、女性 1.7%とほぼ同じ割合である。同様に AUDIT15 点以上の割合は本調査対象者のうち、男性では 5.8%、女性 0.9%であったのに対して 2008 年全国調査では男性 5.7%、女性 0.8%と男性ではやはりほぼ同じ割合である。一方、アルコール依存症の診断基準に当てはまるものの割合は本研究と 2008 年の調査とでは基準が異なるため、直接比較することはできない。しかし、本調査で使用した DSM-IV の診断基準を用いると男性の 7.7%、女性の 1.7%がアルコール依存症の基準を今までに満たしたことがある(障害有病率)に対して 2008 年の調査では ICD-10

を用いているが、アルコール依存症の生涯有病率に該当したのは男性の1%、女性の0.2%と大きな違いが見られている。

その理由として、アルコール依存症の診断基準そのものの違いが挙げられる。ICD-10とDSM-IVの診断基準を比較すると基準そのものにはあまり大きな違いはない。

ICD-10では1)飲酒への強い欲望、2)飲酒を始めたり止めたりすることや飲酒量のコントロール喪失、3)中止または減量した時の離脱症状、4)耐性の存在、5)飲酒中心の生活、6)負の強化への抵抗の6項目の内、3項目以上が認められることが必要となる。一方、DSM-IVは、1)耐性、2)離脱症状、3)飲酒のコントロール喪失、4)断酒や節酒が不能であること、5)飲酒に関連したことに長い時間を費やすこと、6)飲酒のために社会的、職業的、娯楽的活動を放棄したり減少させること、7)負の強化への抵抗の7項目の内、3項目以上が認められることが必要となる。しかし、ICD-10では1年間に同時に3項目以上に当てはまる必要があるのに対してDSM-IVでは3項目以上が1年間のどこかで認められれば該当とみなされる。基準に該当する時期の違いがその割合に影響している可能性が考えられる。

本研究では米国の大規模研究で使用された調査質問票のアルコール使用障害の部分を邦訳して施行したため、2国間での比較が可能となる。

図1~4に論文に発表された米国での調査結果と本研究の結果との比較を示す。米国の調査は2001年から2002年にかけて全米の18歳以上の一般住民43,093名を対象としている。アフリカ系住民やヒスパニック、

若年者(18歳から24歳)の割合が全米の割合より多かったと報告されている(13)。

アルコール依存症(過去1年)およびアルコール乱用(過去1年)の有病率を性別、年齢別に分けて比較した。男性の依存症有病率については日米間ではむしろ本研究で有病率が高いという結果であった。また、米国の調査では依存も乱用も若い世代に多いことが特徴として挙げられる一方、本研究では男性の場合は図1に示すように中年世代の有病率が高いという特徴がある。しかし、乱用については男女、年齢に無関係に米国で明らかに有病率が高い。国民性や飲酒パターンの違いなどが影響している可能性が考えられるが、今後の課題である。いずれにせよ、本研究はこの調査票を用いて一般住民を対象に調査を実施した初めての研究である。

喫煙者の割合は男性30.8%、女性10.4%であったが、この結果を平成23年の国民栄養調査(12)の結果と比較すると男性32.4%、女性9.7%と男女とも概ね同じ割合であった。

FTND7点以上(高度依存)の割合は男性の2.8%、女性の0.4%が該当していた。この割合を前述の2008年全国調査と比較すると、男性の5.1%、女性の0.6%がFTND7点以上と報告されており、男性ではやや少ないものの、女性はほぼ同じ割合である。

インターネット依存のIAT40点以上の割合は男女とも20歳代、30歳代という若い世代で高いという特徴があるが、これは既存の多くの調査結果と一致する。本研究では素集計で男性の4.7%、女性の2.5%が40点以上であった。これを2012年の20歳以上総人口で年齢を標準化すると男性の6.9%、女性の2.5%となる。一方、2008年の全国調

査では年齢を調整した割合で男性の8.3%、女性の7.7%が40点以上という結果であった。

ギャンブルに関してはSOGS5点以上の割合は男性11.1%、女性1.7%であった。これを総人口で年齢調整をすると男性の11.5%、女性の1.7%が5点以上となる。2008年の全国調査では男性9.5%、女性1.6%と男女ともほぼ同じ割合であった。

今回の調査で震災の影響を検討するために沿岸部と内陸部での比較と被災状況との関係について集計した。

E. 結論

本研究の目的は、被災地におけるアルコール関連問題や嗜癖行動の実態を調査し、震災との関連を検討することにある。

本年度は被災地調査の対照コントロールとして全国を対象とした実態調査を実施した。本研究は国内では初めてDSM-IVを用いてアルコール依存症および乱用の全国の一般住民を対象として有病率調査を実施した。米国における調査結果との比較から、わが国では中年男性の依存症の有病率が高い可能性が示唆された。また、その他の項目について本研究で得られた結果は2008年の全国調査結果とほぼ同じ結果であり、調査の妥当性は得られたと考える。

昨年度の岩手県・宮城県調査との比較については、分担研究者である尾崎米厚先生の報告書をご覧いただきたい。

参考文献

1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, American

Psychiatric Association, Washington, D.C., 1994 (高橋三郎, 大野 裕、染谷俊幸訳: DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院、東京、1995)

2) Grant BF, Dawson DA, Stinson FS, et al.: The 12-month prevalence and trends in DSM-IV alcohol abuse and dependence: United States, 1991-1992 and 2001-2002. Drug Alcohol Depend, 74: 223-234, 2004.

3) Saunders JB, Aasland OG: WHO Collaborative Project on Identification and Treatment of Persons with Harmful Alcohol Consumption, Report on Phase I. Development of a Screening Instrument (MNH/DAT/86.3), World Health Organization, Geneva, 1987.

4) 廣 尚典、島 悟: 問題飲酒指標 AUDIT 日本語版の有用性に関する検討。日本アルコール・薬物医学会雑誌 31; 437-450, 1996.

5) Mayfield DG, McLeod G, Hall P: The CAGE questionnaire: validation of a new alcoholism screening instrument. Am J Psychiatry, 131: 1121-1123, 1974.

6) Heatherton TF, Kozlowski LT, Frecker RC, et al.: The Fagerström Test for Nicotine Dependence: a revision of the Fagerström Tolerance Questionnaire. Br J Addict, 86: 1119-1127, 1991.

7) Kawakami N, Takatsuka N, Inaba S, et al.: Development of a screening questionnaire for tobacco/nicotine dependence according to ICD-10, DSM-II-R, and DSM-IV. Addict Behav, 24: 155-166, 1999.

8) Young KS: Caught in the Net. John Wiley & Sons, Inc., New York, 1998.

9) Lesieur HR, Blume SB: The South Oaks Gambling Screen (SOGS): a new instrument for the identification of pathological gamblers. Am J Psychiatry, 144: 1184-1188, 1987.

10) Baillie AJ, et al.: The Benzodiazepine Dependence Questionnaire: Development, reliability and validity. Br J Psychiatry, 169: 276-281, 1996.

11) 樋口 進：成人の飲酒と生活習慣に関する実態調査研究 厚生労働科学研究費補助金 わが国における飲酒の実態ならびに飲酒に関連する生活習慣病、公衆衛生上の諸問題とその対策に関する総合的研究（主任研究者：石井裕正）平成 20 年度総括分担研究報告書 2009 年 3 月

12) 厚生労働省「国民栄養の現状」(国民栄養調査結果)
<http://www.health-net.or.jp/tobacco/product/pd100000.html>

13) Falk DE, Yi H-Y, Hiller-Sturmhöfel S: An epidemiologic analysis of co-occurring alcohol and tobacco use and disorders: Findings from the National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions. Alcohol Res Health, 29: 162-171, 2006.

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 藤田さかえ：被災地のアルコール関連問題に対するソーシャルワークのこころみ。日本アルコール関連問題学会。岐阜市。

2013.7 月

2) 佐久間寛之、松下幸生、木村 充、藤田さかえ、瀧村 剛、尾崎米厚、樋口 進：被災地におけるアルコール関連問題・嗜癖行動の実態調査。平成 25 年度アルコール薬物依存関連学会。岡山市。2013.10.4

3) 瀧村 剛、松下幸生、中山秀紀、中山寿一、吉村 淳、遠山朋海、真栄里 仁、樋口 進：東日本大震災後の被災地消防団におけるアルコール関連問題の変化 岩手県大船渡市消防団に対する調査より。平成 25 年度アルコール薬物依存関連学会。岡山市。2013.10.4

4) Kimura M: The prevalence of alcohol, nicotine, hypnotic abuse in the earthquake and tsunami stricken area in Japan. International Society for Addiction Medicine, Kuala Lumpur, Malaysia. 2013.11 月

5) Sakuma H, Matsushita S, Kimura M, Fujita S, Takimura T, Higuchi S: The prevalence of alcohol, nicotine, hypnotic abuse in the earthquake and tsunami stricken area in Japan. Kurihama-Pusan Joint Workshop. Kamakura, Japan, 2014.3 月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし

表1 基本集計（性・年齢階級別、回答数）

年齢階級	男性		女性		男女合計	
	実数	%	実数	%	実数	%
20歳代	39	7.9	64	10.9	103	9.5
30歳代	72	14.6	93	15.8	165	15.3
40歳代	77	15.6	108	18.3	185	17.1
50歳代	87	17.7	105	17.8	192	17.7
60歳代	109	22.1	122	20.7	231	21.4
70歳代	85	17.2	79	13.4	164	15.2
80歳以上	24	4.9	18	3.1	42	3.9
合計	493	100.0	589	100.0	1082	100.0

注：端数を四捨五入しているため100パーセントにならない場合がある

表2 基本集計（平均年齢）

	男性	女性	男女計
平均値	54.7	52.0	53.2
最小値	20	20	20
最大値	98	87	98
標準偏差	16.7	16.4	16.6

表3 基本集計（教育年数）

	6 年以下		7 年以上 9 年以下		10 年以上 12 年以下		13 年以上 15 年以下		16 年以上		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20 歳代	0	0	0	0	11	28.2	10	25.6	18	46.2	39
30 歳代	0	0	3	4.2	25	34.7	10	13.9	34	47.2	72
40 歳代	0	0	4	5.3	28	36.8	13	17.1	31	40.8	76
50 歳代	0	0	5	5.8	35	40.2	13	14.9	34	39.1	87
60 歳代	0	0	11	10.1	48	44.0	13	11.9	37	33.9	109
70 歳代	0	0	21	24.7	29	34.1	11	12.9	24	28.2	85
80 歳以上	3	12.5	9	37.5	3	12.5	5	20.8	4	16.7	24
全体	3	0.6	53	10.8	179	36.4	75	15.2	182	37.0	492
女性											
20 歳代	0	0	1	1.6	19	29.7	19	29.7	25	39.1	64
30 歳代	0	0	2	2.2	28	30.1	42	45.2	21	22.6	93
40 歳代	0	0	1	0.9	39	36.5	47	43.9	20	18.7	107
50 歳代	1	1.0	4	3.8	55	52.4	30	28.6	15	14.3	105
60 歳代	0	0	18	14.8	68	55.7	20	16.4	16	13.1	122
70 歳代	2	2.5	27	34.2	36	45.6	12	15.2	2	2.5	79
80 歳以上	3	16.7	9	50.0	6	33.3	0	0	0	0	18
全体	6	1.0	62	10.5	251	42.7	170	28.9	99	16.8	588

表4 基本集計（婚姻状況）

	配偶者と同居		配偶者と別居		内縁関係		死別		離婚		未婚（結婚したことがない）		無回答		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性															
20歳代	9	23.1	1	2.6	0	0	0	0	0	0	28	71.8	1	2.6	39
30歳代	49	68.1	0	0	0	0	0	0	2	2.8	21	29.2	0	0	72
40歳代	56	72.7	0	0	0	0	0	0	1	1.3	20	26.0	0	0	77
50歳代	71	81.6	1	1.2	0	0	0	0	2	2.3	13	14.9	0	0	87
60歳代	92	84.4	1	0.9	0	0	2	1.8	5	4.6	9	8.3	0	0	109
70歳代	78	91.8	1	1.2	0	0	3	3.5	2	2.4	1	1.2	0	0	85
80歳以上	20	83.3	1	4.2	0	0	3	12.5	0	0	0	0	0	0	24
合計	375	76.1	5	1.0	0	0	8	1.6	12	2.4	92	18.7	1	0.2	493
女性															
20歳代	17	26.6	0	0	0	0	0	0	1	1.6	46	71.9	0	0	64
30歳代	71	76.3	1	1.1	0	0	0	0	2	2.2	19	20.4	0	0	93
40歳代	78	72.2	4	3.7	0	0	0	0	7	6.5	19	17.6	0	0	108
50歳代	83	79.1	5	4.8	0	0	4	3.8	5	4.8	8	7.6	0	0	105
60歳代	92	75.4	0	0	0	0	19	15.6	3	2.5	7	5.7	1	0.8	122
70歳代	47	59.5	1	1.3	0	0	29	29.1	5	6.3	3	3.8	0	0	79
80歳以上	5	27.8	2	11.1	0	0	9	16.4	0	0	2	11.1	0	0	18
合計	393	66.7	13	2.2	0	0	55	9.3	23	3.9	104	17.7	1	0.2	589

表5 基本集計（同居家族の数）

	1人		2人		3人		4人		5人		6人		7人		8人		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男 性																	
20歳代	7	18.0	8	20.5	8	20.5	6	15.4	6	15.4	2	5.1	2	5.1	0	0	39
30歳代	7	9.7	4	5.6	23	31.9	24	33.3	7	9.7	6	8.3	1	1.4	0	0	72
40歳代	7	9.1	17	22.1	17	22.1	18	23.4	12	15.6	5	6.5	1	1.3	0	0	77
50歳代	10	11.5	21	24.1	26	29.9	21	24.1	8	9.2	0	0	1	1.2	0	0	87
60歳代	11	10.1	43	39.5	31	28.4	15	13.8	5	4.6	3	2.8	1	0.9	0	0	109
70歳代	6	7.1	42	49.4	23	27.1	5	5.9	4	4.7	5	5.9	0	0	0	0	85
80歳以上	2	8.3	15	62.5	4	16.7	1	4.2	1	4.2	1	4.2	0	0	0	0	24
合計	50	10.1	150	30.4	132	26.8	90	18.3	43	8.7	22	4.5	6	1.2	0	0	493
女 性																	
20歳代	4	6.3	7	10.9	24	37.5	16	25.0	9	14.1	3	4.7	1	1.6	0	0	64
30歳代	6	6.5	10	10.8	18	19.4	37	39.8	11	11.8	8	8.6	2	2.2	1	1.1	93
40歳代	7	6.5	11	10.2	28	25.9	40	37.0	15	13.9	6	5.6	0	0	1	0.9	108
50歳代	6	5.7	28	26.7	39	37.1	22	21.0	7	6.7	1	1.0	1	1.0	1	1.0	105
60歳代	11	9.0	56	45.9	30	24.6	9	7.4	5	4.1	9	7.4	2	1.6	0	0	122
70歳代	14	17.7	35	44.3	20	25.3	6	7.6	3	3.8	1	1.3	0	0	0	0	79
80歳以上	4	22.2	6	33.3	2	11.1	3	16.7	1	5.6	0	0	2	11.1	0	0	18
合計	52	8.8	153	26.0	161	27.3	133	22.6	51	8.7	28	4.8	8	1.4	3	0.5	589

表6 基本集計（職業）

	自営		正社員		非常勤		学生		主婦		無職		その他		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男 性															
20歳代	1	2.6	28	71.8	4	10.3	4	10.3	0	0	2	5.1	0	0	39
30歳代	8	11.1	58	80.6	5	6.9	0	0	0	0	1	1.4	0	0	72
40歳代	13	16.9	59	76.6	3	3.9	0	0	0	0	2	2.6	0	0	77
50歳代	20	23.0	52	59.8	6	6.9	0	0	0	0	9	10.3	0	0	87
60歳代	17	15.6	26	23.9	26	23.9	0	0	0	0	39	35.8	1	0.9	109
70歳代	17	20.0	4	4.7	9	10.6	0	0	0	0	55	64.7	0	0	85
80歳以上	1	4.2	2	8.3	0	0	0	0	0	0	21	87.5	0	0	24
合計	77	15.6	229	46.5	53	10.8	4	0.8	0	0	129	26.2	1	0.2	493
女 性															
20歳代	1	1.6	26	40.6	20	31.3	8	12.5	7	10.9	2	3.1	0	0	64
30歳代	5	5.4	23	24.7	43	46.2	0	0	20	21.5	1	1.1	1	1.1	93
40歳代	11	10.2	30	27.8	45	41.7	0	0	18	16.7	3	2.8	1	0.9	108
50歳代	13	12.4	18	17.1	37	35.2	0	0	34	32.4	3	2.9	0	0	105
60歳代	23	18.9	7	5.7	16	13.1	1	0.8	67	54.9	7	5.7	1	0.8	122
70歳代	4	5.1	0	0	5	6.3	0	0	49	62.0	20	25.3	1	1.3	79
80歳以上	1	5.6	0	0	0	0	0	0	8	44.4	9	50.0	0	0	18
合計	58	9.9	104	17.7	166	28.2	9	1.5	203	34.5	45	7.6	4	0.7	589

表7 基本情報（収入の分布）

	100万未満		100-200万未満		200-300万未満		300-400万未満		400-600万未満		600-800万未満		800-1000万未満		1000-1200万未満		1200-1500万未満		1500万以上		収入なし		不明		合計		
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%			
男性																											
20歳代	3	7.7	3	7.7	13	33.3	11	28.2	2	5.1	1	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7.7	3	7.7	39
30歳代	2	2.8	6	8.3	10	13.9	21	29.2	14	19.4	10	13.9	2	2.8	1	1.4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8.3	72
40歳代	2	2.6	3	3.9	9	11.7	15	19.5	16	20.8	17	22.1	5	6.5	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	2	2.6	77
50歳代	5	5.8	9	10.3	8	9.2	11	12.6	13	14.9	14	16.1	9	10.3	4	4.6	1	1.2	2	2.3	6	6.9	5	5.8	87		
60歳代	5	4.6	20	18.4	37	33.9	11	10.1	14	12.8	7	6.4	4	3.7	3	2.8	1	0.9	2	1.8	2	1.8	3	2.8	109		
70歳代	5	5.9	22	25.9	31	36.5	14	16.5	1	1.2	2	2.4	1	1.2	2	2.4	0	0	1	1.2	0	0	6	7.1	85		
80歳以上	2	8.3	6	25.0	10	41.7	2	8.3	1	4.2	1	4.2	1	4.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4.2	24
合計	24	4.9	69	14.0	118	23.9	85	17.2	61	12.4	52	10.6	22	4.5	12	2.4	4	0.8	7	1.4	13	2.6	26	5.3	493		
女性																											
20歳代	12	18.8	16	25.0	14	21.9	7	10.9	1	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	15.6	4	6.3	64
30歳代	22	23.7	19	20.4	10	10.8	9	9.7	5	5.4	1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	19.4	9	9.7	93
40歳代	24	22.2	26	24.1	10	9.3	11	10.2	6	5.6	5	4.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16.7	8	7.4	108
50歳代	21	20.0	27	25.7	6	5.7	6	5.7	3	2.9	5	4.8	3	2.9	1	1.0	0	0	0	0	0	0	28	26.7	5	4.8	105
60歳代	50	41.0	30	24.6	8	6.6	4	3.3	4	3.3	2	1.6	1	0.8	1	0.8	0	0	0	0	0	0	15	12.3	7	5.7	122
70歳代	32	40.5	26	32.9	9	11.4	2	2.5	1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.3	0	0	2	2.5	6	7.6	79
80歳以上	7	38.9	7	38.9	1	5.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16.7	18
合計	168	28.5	151	25.6	58	9.9	39	6.6	20	3.4	13	2.2	4	0.7	2	0.3	1	0.2	0	0	91	15.5	42	7.1	589		

表 8 被災関連の情報

	震災による被害あり		震災による被害なし		合計
	実数	%	実数	%	
男 性					
20 歳代	3	7.7	36	92.3	39
30 歳代	3	4.2	68	95.8	71
40 歳代	4	5.2	73	94.8	77
50 歳代	9	10.3	78	89.7	87
60 歳代	4	3.7	105	96.3	109
70 歳代	7	8.3	77	91.7	84
80 歳以上	0	0	24	100.0	24
合計	30	6.1	461	93.9	491
女 性					
20 歳代	4	6.4	59	93.7	63
30 歳代	5	5.4	87	94.6	92
40 歳代	8	7.5	99	92.5	107
50 歳代	10	9.5	95	90.5	105
60 歳代	12	9.9	109	90.1	121
70 歳代	2	2.6	76	97.4	78
80 歳以上	0	0	18	100.0	18
合計	41	7.0	543	93.0	584

表9 飲酒経験の有無

	なし		あり		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
20歳代	1	2.6	38	97.4	39
30歳代	4	5.6	68	94.4	72
40歳代	4	5.2	73	94.8	77
50歳代	2	2.3	85	97.7	87
60歳代	6	5.5	103	94.5	109
70歳代	5	5.9	80	94.1	85
80歳以上	5	20.8	19	79.2	24
全体	27	5.5	466	94.5	493
女性					
20歳代	3	4.7	61	95.3	64
30歳代	9	9.7	84	90.3	93
40歳代	12	11.1	96	88.9	108
50歳代	12	11.4	93	88.6	105
60歳代	37	30.3	85	69.7	122
70歳代	36	46.6	43	54.4	79
80歳以上	9	50.0	9	50.0	18
全体	118	20.0	471	80.0	589

表 10 飲酒頻度（性別、年代別）

	毎日		週 3~6 日		月 2~4 日		月 1 日以下		過去 1 年飲酒なし		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男 性											
20 歳代	0	0	6	15.8	22	57.9	10	26.3	0	0	38
30 歳代	19	27.9	9	13.2	18	26.5	17	25.0	5	7.4	68
40 歳代	25	34.3	17	23.3	20	27.4	6	8.2	5	6.9	73
50 歳代	36	42.4	17	20.0	15	17.7	6	7.1	11	12.9	85
60 歳代	48	46.6	20	19.4	13	12.6	12	11.7	10	9.7	103
70 歳代	32	40.0	13	16.3	11	13.8	9	11.3	15	18.8	80
80 歳以上	6	31.6	5	26.3	3	15.8	3	15.8	2	10.5	19
合計	166	35.6	87	18.7	102	21.9	63	13.5	48	10.3	466
女 性											
20 歳代	5	8.2	5	8.2	18	29.5	27	44.3	6	9.8	61
30 歳代	8	9.5	4	4.8	26	31.0	22	26.2	24	28.6	84
40 歳代	18	18.8	16	16.7	23	24.0	24	25.0	15	15.6	96
50 歳代	9	9.7	12	12.9	20	21.5	24	25.8	28	30.1	93
60 歳代	7	8.2	10	11.8	18	21.2	26	30.6	24	28.2	85
70 歳代	7	16.3	2	4.7	6	14.0	10	23.3	18	41.9	43
80 歳以上	0	0	0	0	0	0	2	22.2	7	77.8	9
合計	54	11.5	49	10.4	111	23.6	135	28.7	122	25.9	471

表 11 飲酒量の比較（飲酒経験のある者のみ）（純アルコール 10 グラムを 1 単位とする）

	男性		女性	
	平均単位数	標準偏差	平均単位数	標準偏差
20 歳代	3.4	3.3	3.4	2.6
30 歳代	4.5	4.3	2.8	1.9
40 歳代	4.7	3.8	2.6	2.1
50 歳代	5.5	5.0	3.0	3.4
60 歳代	3.8	3.4	1.6	1.5
70 歳代	3.6	3.0	1.3	1.0
80 歳以上	3.1	1.9	0.6	0.3
全体	4.3	3.9	2.5	2.4

表 12 飲酒量の分布（性別、年代別）

	0 単位		2 単位未満		2 単位以上 4 単位未満		4 単位以上 6 単位未満		6 単位以上 10 単位未満		10 単位以上		不明		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
男性																
20 歳代	1	2.6	15	38.5	14	35.9	3	7.7	3	7.7	3	7.7	0	0	39	
30 歳代	4	5.6	17	23.6	21	29.2	12	16.7	6	8.3	7	9.7	5	6.9	72	
40 歳代	4	5.2	20	26.0	15	19.5	14	18.2	12	15.6	7	9.1	5	6.5	77	
50 歳代	2	2.3	14	16.1	19	21.8	17	19.5	12	13.8	11	12.6	12	13.8	87	
60 歳代	6	5.5	27	24.8	31	8.4	22	20.2	9	8.3	4	3.7	10	9.2	109	
70 歳代	5	5.9	21	24.7	22	25.9	11	12.9	10	11.8	1	1.2	15	17.7	85	
80 歳以上	5	20.8	6	25.0	7	29.2	2	8.3	2	8.3	0	0	2	8.3	24	
全体	27	5.5	120	24.3	129	26.2	81	16.4	54	11.0	33	6.7	49	9.9	493	
女性																
20 歳代	3	4.7	14	21.9	24	37.5	6	9.4	10	15.6	1	1.6	6	9.4	64	
30 歳代	9	9.7	23	24.7	21	22.6	12	12.9	4	4.3	0	0	24	25.8	93	
40 歳代	12	11.1	35	32.4	26	24.1	12	11.1	5	4.6	1	0.9	17	15.7	108	
50 歳代	12	11.4	30	28.6	19	18.1	8	7.6	2	1.9	4	3.8	30	28.6	105	
60 歳代	37	30.3	49	40.2	7	5.7	2	1.6	3	2.5	0	0	24	19.7	122	
70 歳代	36	45.6	21	26.6	3	3.8	1	1.3	0	0	0	0	18	22.8	79	
80 歳以上	9	50.0	2	11.1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	38.9	18	
全体	118	20.0	174	29.5	100	17.0	41	7.0	24	4.1	6	1.0	126	21.4	589	

表 13 寝酒の習慣の比較（性別、年齢別）

	毎日		週 3-6 日		月 2~4 日		月 1 日以下		なし		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性	30	6.4	16	3.4	13	2.8	25	5.3	384	82.1	468
20 歳代	0	0	1	2.8	1	2.8	5	13.9	29	80.6	36
30 歳代	5	7.0	3	4.2	4	5.6	2	2.8	57	80.3	71
40 歳代	7	9.3	8	10.7	3	4.0	4	5.3	53	70.7	75
50 歳代	5	6.0	3	3.6	4	4.8	5	6.0	66	79.5	83
60 歳代	5	4.6	0	0	0	0	7	6.5	96	88.9	108
70 歳代	7	9.3	1	1.3	1	1.3	2	2.7	64	85.3	75
80 歳以上	1	5.0	0	0	0	0	0	0	19	95.0	20
女性	11	2.0	2	0.4	7	1.3	21	3.7	520	92.7	561
20 歳代	0	0	0	0	0	0	2	3.3	60	96.8	62
30 歳代	3	3.3	0	0	2	2.2	3	3.3	84	91.3	92
40 歳代	4	3.8	0	0	3	2.8	9	8.5	90	84.9	106
50 歳代	2	2.0	0	0	1	1.0	3	3.0	94	94.0	100
60 歳代	0	0	2	1.8	1	0.9	3	2.6	108	94.7	114
70 歳代	2	2.8	0	0	0	0	1	1.4	69	95.8	72
80 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	15	100.0	15

表 14 AUDIT 点数の分布（性別、年齢別）

	8点未満		8-11点		12-14点		15-19点		20点以上		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20歳代	31	86.1	5	13.9	0	0	0	0	0	0	36
30歳代	56	80.0	4	5.7	5	7.1	5	7.1	0	0	70
40歳代	52	68.4	14	18.4	3	4.0	5	6.6	2	2.6	76
50歳代	54	64.3	18	21.4	5	6.0	3	3.6	4	4.8	84
60歳代	77	73.3	17	16.2	5	4.8	4	3.8	2	1.9	105
70歳代	62	80.5	12	15.6	1	1.3	2	2.6	0	0	77
80歳以上	16	88.9	1	5.6	1	5.6	0	0	0	0	18
全体	348	74.7	71	15.2	20	4.3	19	4.1	8	1.7	466
女性											
20歳代	55	88.7	7	11.3	0	0	0	0	0	0	62
30歳代	88	94.6	2	2.2	1	1.1	2	2.2	0	0	93
40歳代	99	92.5	4	3.7	1	0.9	3	2.8	0	0	107
50歳代	100	99.0	1	1.0	0	0	0	0	0	0	101
60歳代	118	99.2	1	0.8	0	0	0	0	0	0	119
70歳代	72	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	72
80歳以上	17	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
全体	549	96.2	15	2.6	2	0.4	5	0.9	0	0	571

表 15 CAGE 得点の分布

	0点		1点		2点		3点		4点		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20歳代	34	94.4	1	2.8	1	2.8	0	0	0	0	36
30歳代	48	67.6	13	18.3	7	9.9	3	4.2	0	0	71
40歳代	52	69.7	14	18.4	8	10.5	1	1.3	0	0	76
50歳代	58	69.1	18	21.4	3	3.6	4	4.8	1	1.2	84
60歳代	67	61.5	33	30.3	9	8.3	0	0	0	0	109
70歳代	62	77.5	9	11.3	7	8.8	1	1.3	1	1.3	80
80歳以上	20	95.2	1	4.8	0	0	0	0	0	0	21
全体	342	71.7	89	18.7	35	7.3	9	1.9	2	0.4	477
女性											
20歳代	57	90.5	6	9.5	0	0	0	0	0	0	63
30歳代	84	90.3	9	9.7	0	0	0	0	0	0	93
40歳代	91	85.1	14	13.1	2	1.9	0	0	0	0	107
50歳代	101	98.1	2	1.9	0	0	0	0	0	0	103
60歳代	117	96.7	3	2.5	1	0.8	0	0	0	0	121
70歳代	74	98.7	1	1.3	0	0	0	0	0	0	75
80歳以上	17	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
全体	541	93.4	35	6.0	3	0.5	0	0	0	0	579

表 16 DSM-IV アルコール依存および乱用の基準を満たす者の割合

	アルコール依存（12 か月）		アルコール依存（生涯）		アルコール乱用（12 か月）		アルコール乱用（生涯）									
	なし		あり		なし		あり									
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%								
男性																
20 歳代	36	92.3	3	7.7	38	97.4	1	2.6	37	94.9	2	5.1	37	94.9	2	5.1
30 歳代	64	88.9	8	11.1	56	77.8	16	22.2	72	100.0	0	0	64	88.9	8	11.1
40 歳代	67	87.0	10	13.0	53	68.8	24	31.2	73	94.8	4	5.2	68	88.3	9	11.7
50 歳代	71	81.6	16	18.4	61	70.1	26	29.9	85	97.7	2	2.3	80	92.0	7	8.1
60 歳代	101	92.7	8	7.3	87	79.8	22	20.2	108	99.1	1	0.9	97	89.0	12	11.0
70 歳代	81	95.3	4	4.7	66	77.7	19	22.4	84	98.8	1	1.2	76	89.4	9	10.6
80 歳以上	24	100.0	0	0	24	100.0	0	0	24	100.0	0	0	23	95.8	1	4.2
全体	444	90.1	49	9.9	385	78.1	108	21.9	483	98.0	10	2.0	445	90.3	48	9.7
女性																
20 歳代	62	96.9	2	3.1	61	95.3	3	4.7	64	100.0	0	0	63	98.4	1	1.6
30 歳代	90	96.8	3	3.2	81	87.1	12	12.9	90	96.8	3	3.2	89	95.7	4	4.3
40 歳代	105	97.2	3	2.8	96	88.9	12	11.1	106	98.1	2	1.9	104	96.3	4	3.7
50 歳代	104	99.1	1	1.0	102	97.1	3	2.9	103	98.1	2	1.9	100	95.2	5	4.8
60 歳代	122	100.0	0	0	121	99.2	1	0.8	122	100.0	0	0	120	98.4	2	1.6
70 歳代	79	100.0	0	0	78	98.7	1	1.3	79	100.0	0	0	79	100.0	0	0
80 歳以上	18	100.0	0	0	18	100.0	0	0	18	100.0	0	0	18	100.0	0	0
全体	580	98.5	9	1.5	557	94.6	32	5.4	582	98.8	7	1.2	573	97.3	16	2.7

表 17 喫煙者の割合

	元喫煙者		非喫煙者		喫煙者		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	
男性							
20 歳代	0	0	29	74.4	10	25.6	39
30 歳代	16	22.2	28	38.9	28	38.9	72
40 歳代	17	22.1	28	36.4	32	41.6	77
50 歳代	31	35.6	21	24.1	35	40.2	87
60 歳代	43	39.5	35	32.1	31	28.4	109
70 歳代	46	54.1	24	28.2	15	17.7	85
80 歳以上	14	58.3	9	37.5	1	4.2	24
全体	167	33.9	174	35.3	152	30.8	493
女性							
20 歳代	2	3.1	51	79.7	11	17.2	64
30 歳代	15	16.1	70	75.3	8	8.6	93
40 歳代	12	11.1	80	74.1	16	14.8	108
50 歳代	7	6.7	85	81.0	13	12.4	105
60 歳代	12	9.8	105	86.1	5	4.1	122
70 歳代	2	2.5	71	89.9	6	7.6	79
80 歳以上	0	0	16	88.9	2	11.1	18
全体	50	8.5	478	81.2	61	10.4	589

表 18 FTND7 点以上、TDS 5 点以上の割合

	FTND7 点以上		FTND7 点未満		合計	TDS5 点以上		TDS5 点未満		合計
	実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	
男性										
20 歳代	0	0	36	100.0	36	1	2.8	35	97.2	36
30 歳代	1	1.4	69	98.6	70	14	19.7	57	80.3	71
40 歳代	4	5.3	72	94.7	76	15	19.7	61	80.3	76
50 歳代	3	3.6	80	96.4	83	16	19.1	68	81.0	84
60 歳代	5	4.8	100	95.2	105	13	12.0	95	88.0	108
70 歳代	0	0	79	100.0	79	4	5.1	75	94.9	79
80 歳以上	0	0	17	100.0	17	1	5.3	18	94.7	19
全体	13	2.8	453	97.2	466	64	13.5	409	86.5	473
女性										
20 歳代	0	0	62	100.0	62	7	11.3	55	88.7	62
30 歳代	0	0	93	100.0	93	3	3.2	90	96.8	93
40 歳代	1	0.9	106	99.1	107	4	3.7	103	96.3	107
50 歳代	0	0	100	100.0	100	6	5.9	96	94.1	102
60 歳代	1	0.8	120	99.2	121	4	3.3	117	96.7	121
70 歳代	0	0	75	100.0	75	1	1.3	74	98.7	75
80 歳以上	0	0	17	100.0	17	1	5.9	16	94.1	17
全体	2	0.4	573	99.7	575	26	4.5	551	95.5	577

表 19 IAT の分布

	40 点以上		40 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
20 歳代	11	31.4	24	68.6	35
30 歳代	6	8.5	65	91.6	71
40 歳代	5	6.7	70	93.3	75
50 歳代	0	0	83	100.0	83
60 歳代	0	0	106	100.0	106
70 歳代	0	0	78	100.0	78
80 歳以上	0	0	19	100.0	19
全体	22	4.7	445	95.3	467
女性					
20 歳代	7	11.3	55	88.7	62
30 歳代	3	3.3	89	96.7	92
40 歳代	4	3.8	102	96.2	106
50 歳代	0	0	102	100.0	102
60 歳代	0	0	119	100.0	119
70 歳代	0	0	75	100.0	75
80 歳以上	0	0	16	100.0	16
全体	14	2.5	558	97.6	572

表 20 SOGS の分布

	5 点以上		5 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
20 歳代	4	11.1	32	88.9	36
30 歳代	8	11.3	63	88.7	71
40 歳代	13	17.1	63	82.9	76
50 歳代	13	15.5	71	84.5	84
60 歳代	12	11.0	97	89.0	109
70 歳代	1	1.3	79	98.8	80
80 歳以上	2	9.5	19	90.5	21
全体	53	11.1	424	88.9	477
女性					
20 歳代	5	7.9	58	92.1	63
30 歳代	3	3.2	90	96.8	93
40 歳代	1	0.9	106	99.1	107
50 歳代	0	0	103	100.0	103
60 歳代	1	0.8	120	99.2	121
70 歳代	0	0	76	100.0	76
80 歳以上	0	0	17	100.0	17
全体	10	1.7	570	98.3	580

表 21 睡眠薬使用の頻度

	なし		月 1 回以下		週 1 回以下		週 1~4 回		ほぼ毎日		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
20 歳代	35	97.2	1	2.8	0	0	0	0	0	0	36
30 歳代	67	94.4	2	2.8	1	1.1	0	0	1	1.4	71
40 歳代	70	93.3	0	0	1	1.3	1	1.3	3	4.0	75
50 歳代	80	96.4	1	1.2	1	1.2	1	1.2	0	0	83
60 歳代	106	97.3	1	0.9	0	0	0	0	2	1.8	109
70 歳代	72	93.5	0	0	0	0	0	0	5	6.5	77
80 歳以上	19	90.5	1	4.8	0	0	1	4.8	0	0	21
全体	449	95.1	6	1.3	3	0.6	3	0.6	11	2.3	472
女性											
20 歳代	61	98.4	0	0	0	0	0	0	1	1.6	62
30 歳代	87	93.6	1	1.1	1	1.1	0	0	4	4.3	93
40 歳代	101	95.3	2	1.9	0	0	0	0	3	2.8	106
50 歳代	96	93.2	3	2.9	0	0	1	1.0	3	2.9	103
60 歳代	103	85.1	4	3.3	7	5.8	0	0	7	5.8	121
70 歳代	53	71.6	6	8.1	4	5.4	2	2.7	9	12.2	74
80 歳以上	15	88.2	1	5.9	0	0	0	0	1	5.9	17
全体	516	89.6	17	3.0	12	2.1	3	0.5	28	4.9	576

表 22 BDEPQ の分布

	23 点未満		23 点以上		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
20 歳代	36	100.0	0	0	36
30 歳代	69	98.6	1	1.4	70
40 歳代	73	98.7	1	1.4	74
50 歳代	82	100.0	0	0	82
60 歳代	108	100.0	0	0	108
70 歳代	72	100.0	0	0	72
80 歳以上	19	100.0	0	0	19
全体	459	99.6	2	0.4	461
女性					
20 歳代	60	98.4	1	1.6	61
30 歳代	88	97.8	2	2.2	90
40 歳代	102	97.1	3	2.9	105
50 歳代	101	100.0	0	0	101
60 歳代	109	96.5	4	3.5	113
70 歳代	65	98.5	1	1.5	66
80 歳以上	16	100.0	0	0	16
全体	541	98.0	11	2.0	552

表 23 AUDIT とニコチン依存とのクロス集計

ニコチン依存 (FTND)

	FTND7 点以上		FTND7 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
AUDIT8 点未満	5	1.5	336	98.5	341
AUDIT8 点以上	8	6.8	109	93.2	117
女性					
AUDIT8 点未満	2	0.4	545	99.6	547
AUDIT8 点以上	0	0	21	100.0	21

男性 ; $\chi^2 = 11.9, p = 0.0025$

ニコチン依存 (TDS)

	TDS5 点以上		TDS5 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
AUDIT8 点未満	38	11.1	306	89.0	344
AUDIT8 点以上	25	21.2	93	78.8	118
女性					
AUDIT8 点未満	25	4.6	523	95.4	548
AUDIT8 点以上	1	4.8	20	95.2	21

男性 ; $\chi^2 = 13.1, p = 0.0056$

表 24 インターネット依存

	IAT 40 点以上		IAT 40 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
AUDIT8 点未満	19	5.6	319	94.4	338
AUDIT8 点以上	3	2.5	115	97.5	118
女性					
AUDIT8 点未満	13	2.4	530	97.6	543
AUDIT8 点以上	1	4.6	21	95.5	22

表 25 ギャンブル依存

	SOGS 5 点以上		SOGS 5 点未満		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
AUDIT8 点未満	36	10.3	312	89.7	348
AUDIT8 点以上	17	14.4	101	85.6	118
女性					
AUDIT8 点未満	10	1.8	539	98.2	549
AUDIT8 点以上	0	0	22	100.0	22

表 26 睡眠薬の使用頻度

	なし		月 1 回以下		週 1 回以下		週 1~4 回		ほぼ毎日		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
AUDIT8 点未満	329	95.9	3	0.9	2	0.6	1	0.3	8	2.3	343
AUDIT8 点以上	112	94.9	2	1.7	1	0.9	1	0.9	2	1.7	118
女性											
AUDIT8 点未満	490	89.4	16	2.9	12	2.2	3	0.6	27	4.9	548
AUDIT8 点以上	19	90.5	1	4.8	0	0	0	0	1	4.8	21

表 27 寝酒の頻度

	毎日		週 3~6 日		月 2~4 日		月 1 日以下		なし		合計
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	
男性											
AUDIT8 点未満	8	2.4	7	2.1	9	2.7	15	4.4	300	88.5	339
AUDIT8 点以上	20	17.0	9	7.6	4	3.4	10	8.5	75	63.6	118
女性											
AUDIT8 点未満	6	1.1	2	0.4	7	1.3	19	3.6	499	93.6	533
AUDIT8 点以上	5	23.8	0	0	0	0	2	9.5	14	66.7	21

男性； $\chi^2 = 47.6, p < 0.0001$ 、女性； $\chi^2 = 56.2, p = < 0.0001$

表 28 ベンゾジアゼピン依存

	BDEPQ 23 点未満		BDEPQ 23 点以上		合計
	実数	%	実数	%	
男性					
AUDIT8 点未満	334	99.4	2	0.6	336
AUDIT8 点以上	116	100.0	0	0	116
女性					
AUDIT8 点未満	514	98.1	10	1.9	524
AUDIT8 点以上	19	95.0	1	5.0	20

表 29 震災被害と多量飲酒者割合

	男性				女性			
	全体		飲酒者のみ		全体 [†]		飲酒者のみ [*]	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
被害あり	2	6.7	2	7.4	5	12.2	5	21.7
被害なし	84	18.2	84	20.2	25	4.6	25	7.8

[†] $\chi^2 = 5.37, p = 0.021$

^{*} $\chi^2 = 5.15, p = 0.023$

表 30 被害の有無とアルコール乱用 (DSM-IV)

	アルコール乱用 (12 か月)				アルコール乱用 (生涯)			
	なし		あり		なし		あり	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男性								
被害あり	29	96.7	1	3.3	29 [†]	96.7	1	3.3
被害なし	451	97.8	10	2.2	380	82.4	81	17.6
全体	480	97.8	11	2.2	409	83.3	82	16.7
女性								
被害あり	39 [*]	95.1	2	4.9	36 ^{**}	87.8	5	12.2
被害なし	538	99.1	5	0.9	521	96.0	22	4.1
全体	577	98.8	7	1.2	557	95.4	27	4.6

* $\chi^2 = 5.04, p = 0.025$

** $\chi^2 = 5.73, p = 0.017$

† $\chi^2 = 4.10, p = 0.043$

表 31 被害の有無とニコチン依存

	FTND7 点以上		FTND7 点未満		合計	TDS5 点以上		TDS5 点未満		合計
	実数	%	実数	%		実数	%	実数	%	
男性										
被害あり	2	7.4	25	92.6	27	5	18.5	22	81.5	27
被害なし	11	2.5	426	97.5	437	59	13.3	385	86.7	444
全体	13	2.8	451	97.2	464	64	13.6	407	86.4	471
女性										
被害あり	1*	2.4	40	97.6	41	5**	12.2	36	87.8	41
被害なし	1	0.2	528	99.8	529	21	4.0	510	96.1	531
全体	2	0.4	568	99.7	570	26	4.6	546	96.1	572

* $\chi^2 = 5.51, p = 0.019$

** $\chi^2 = 5.96, p = 0.015$

図1 男性のアルコール依存症（12か月）有病率の日米比較

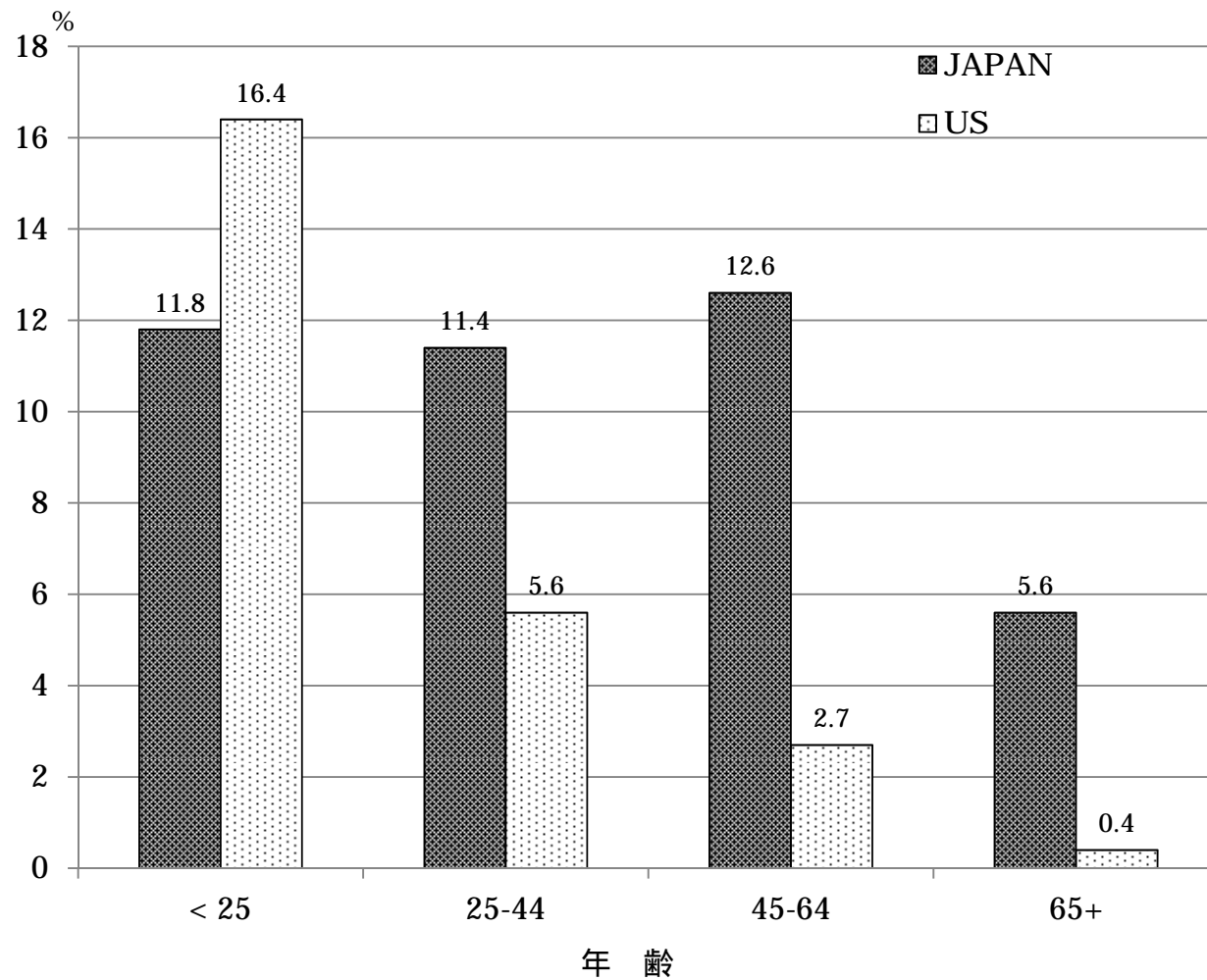


図2 女性のアルコール依存症（12か月）有病率の日米比較

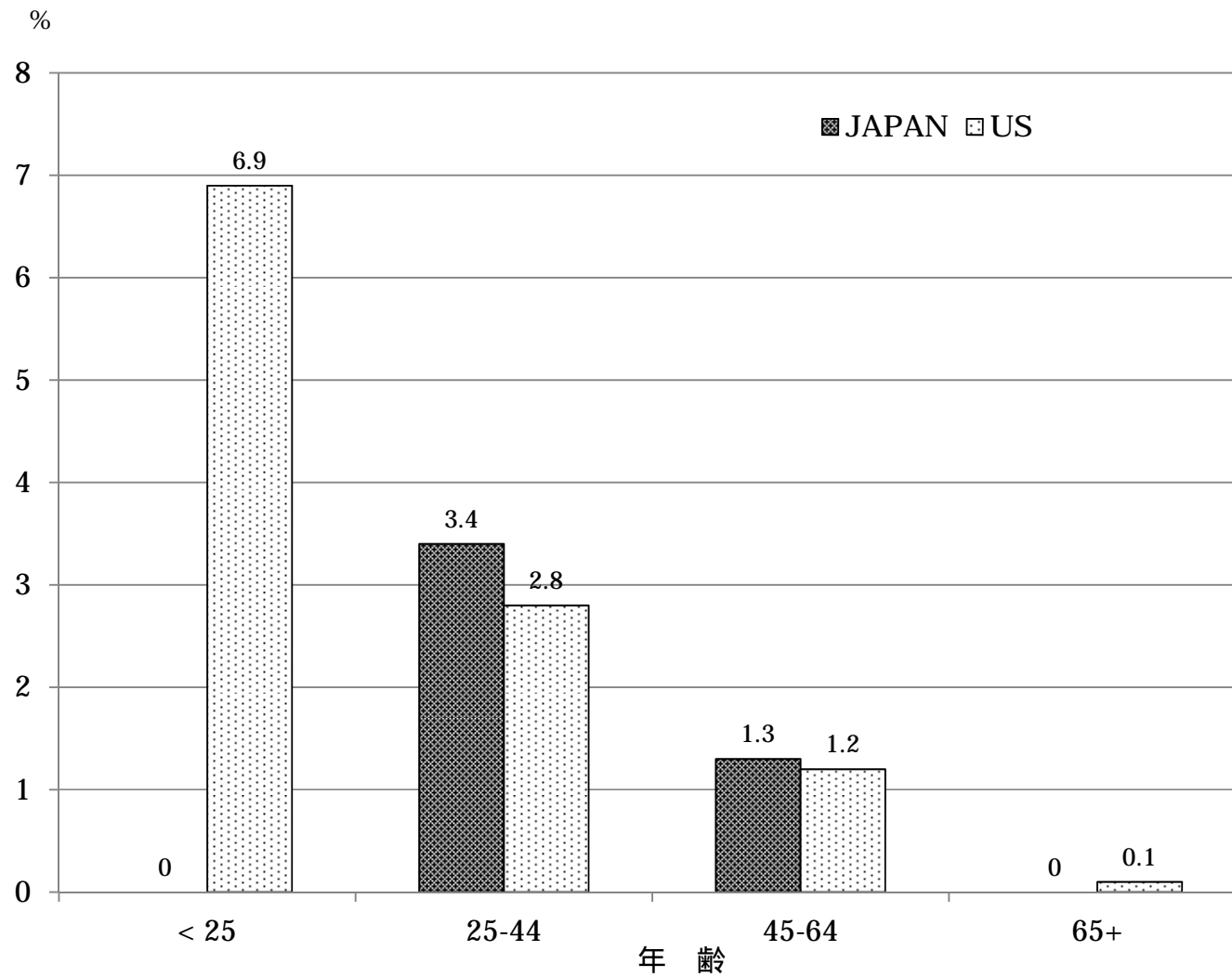


図3 男性のアルコール乱用（12か月）有病率の日米比較

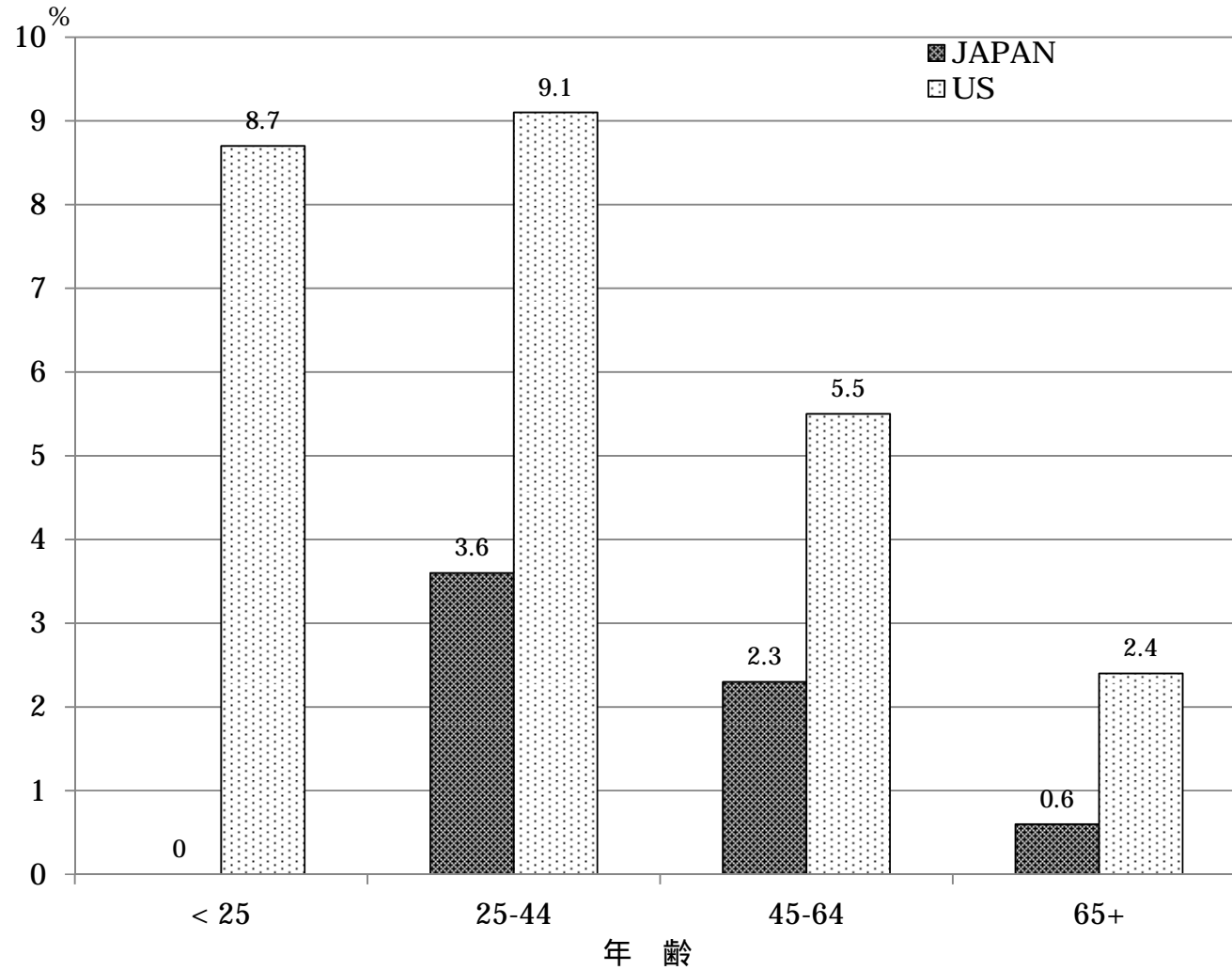


図4 女性のアルコール乱用（12か月）有病率の日米比較

